

家庭教育力の強化を図る

学校・家庭・地域との連携を深めるPTA活動

日進市立東小学校PTA

1 はじめに

本校は、全校児童 611 名、今年で開校 109 年を迎える伝統校である。校区は日進市の北東部に位置し、大部分を森林と田に囲まれた自然豊かな環境にある。米野木地区、藤島地区、藤枝地区、三本木地区の 4 つに分かれており、以前は古くからの住宅が多かったが、名鉄豊田線の米野木駅周辺の宅地開発により、近年は他市町から転入してきた新しい住民が増えている。それに伴って、祖父母が同居していたり、近所に住んでいたりする家庭よりも、父母と子どもだけの核家族の割合が増えてきている。

地域には「お馬頭」という五穀豊穰を願った伝統行事があり、毎年、地域のお馬頭保存会の方々が、3年生の児童を対象に出前授業を行っている。他にも、米作りや「日進おどり」の指導、お年寄りからのお手玉の寄付など、地域の方々の温かい支援のもと、多くの教育活動が行われている。



【校舎の外観】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校は比較的地域との結びつきが強い学校ではあるが、近年の核家族の増加に伴い、家庭と地域の結びつきが弱まりつつある。また、相談相手が身近にいないことから、家庭教育について不安を抱いている保護者の姿も見られるようになってきた。

子どもたちは多くの人たちとの関わりを通して、よりよい人間関係を築く方法を学び、社会の一員であるという自覚をもつようになる。また、家族の愛情や地域の人々の温かさに触れることで、豊かな情操が養われ、思いやりや助け合いの心が育っていく。そこで、PTA活動を通して、学校・家庭・地域との連携を深め、家庭教育の充実に努めることで、子どもたちの健全な育成を図っていきたいと考えた。

(2) PTAの組織と活動内容

本校のPTAは、会長、副会長、母代、書記、会計の5役と、研修、児童活動支援、広報、地区の4つの委員会から組織されている。

研修委員会は給食試食会や救急救命法講習会、児童活動支援委員会は絵本の読み聞かせや家庭科の授業支援、地区委員会は登校指導などを行い、それらの活動の様子を広報委員会がPTA新聞にまとめ、各家庭や地域への広報活動を行っている。また、市の事業である家庭教育推進委員会の委員としてPTA役員が活動することで、家庭教育の充実に努めている。

3 実践活動の概要

(1) 給食試食会

研修委員会が中心となって、PTA会員全世帯から参加希望者を募り、毎年秋に給食試食会を行っている（令和2年度は感染症予防のため実施せず）。参加者は、自分自身が小学生のときには気付かなかった栄養バランスのよさや色取り、味付けの工夫に感心しながら給食を味わった。試食後は、



【給食試食会の様子】

日進市給食センターの栄養士を講師に迎え、成長期の子どもに必要な栄養素やそれをバランスよく取れる献立についての講義を受けた。「これをきっかけに、普段の食事でも栄養について考えながら作りたい」という感想が多く、食の大切さを学ぶよい機会となった。

(2) ゼロの日登校指導・同伴登校指導



【登校指導の様子】

毎月10日、20日、30日のゼロの付く日に、地区委員会を中心となって、各地区で登校指導を行っている。道路の歩き方の指導だけでなく、交通安全と防犯の両面から地区内の様子を見回り、子どもたちに注意喚起をしたり、学校や区長と連携を図りながら解決策を考えたりしている。また、学期に1

回ずつ同伴登校指導として、分団集合場所から学校までの道のりを一緒に歩き、通学路の安全点検を行っている。

(3) 児童活動支援

児童活動支援委員会を中心となってPTA会員からボランティアを募り、本の読み聞かせ会と家庭科の授業支援を行っている。

① 本の読み聞かせ会

朝の業前時間に1・2年生の各学級に出向き、児童に絵本の読みき

かせを行っている。読み聞かせをする本は、ボランティアの方が自ら選んで持参したり、本校の図書館運営補助職員が選んだりして決めている。毎回、子どもたちの喜びそうな絵本ばかりで、大型絵本や紙芝居などを読むこともある。ボランティアの中には、ご自身の子どもが低学年のときに初めてボランティアに参加し、子どもたちの喜ぶ顔を見られることが楽しみで、何年か継続して続けている保護者もいる。事前に各自で読み聞かせの練習をし、子どもたちに語りかけながら表情豊かに読んでくださるので、子どもたちは目を輝かせながら聞き、お話の世界を楽しんでいる。



【読み聞かせの様子】

② 家庭科の授業支援

家庭科の裁縫の時間に児童への支援を行っている。グループに1・2名のボランティアが入り、児童と一緒に担当教諭から手縫いやミシン縫いの手順を聞いた後、実演をしながら児童に縫い方を教えていく。日常生活の中で、裁縫をする経験が少なくなっていることもあり、糸の通し方や玉結びなどの基本的な作業も初めて経験する児童が多く、ボランティアの存在は大変ありがたいものになっている。また、ボランティアに参加した保護者からは、「授業参観では分からない普段の子どもたちの様子を知ることができよかった」「裁縫は家庭でも教えていきたいと思う」などの感想が寄せられた。



【家庭科の支援をする様子】

(4) 防災訓練「学校に泊まろう」

家庭教育推進委員会が中心となって、土曜、日曜に1泊2日で災害時の訓練を行っている。土曜日の午後に学校の体育館に集まり、PTA研修委員会が企画した心肺蘇生法や紐の結び方、身の回りのものを使った応急措置法などの防災訓練を行う。その後、体育館に防災テントを設置するグループとカレーライスを作るグループに分かれ、災害時の避難所設置の体験をする。夜は、真っ暗な校舎を懐中電灯を持って歩き、災害時に電気がない場合の体験をしたり、消防団や地域の方々が講師となっ

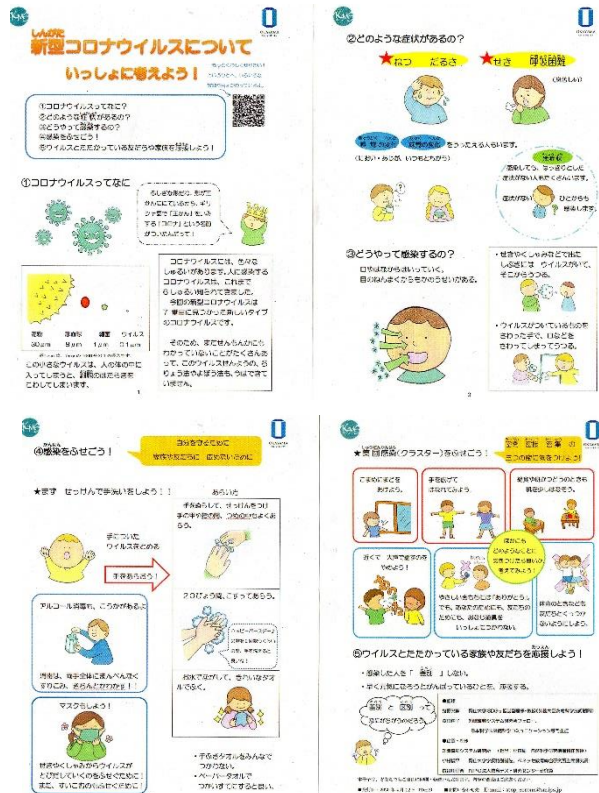
て、防災について学んだりする。残念ながら今年度は感染症予防のため、宿泊をとしての訓練は実施できないが、「防災倉庫の中身を知ろう！」というテーマで、防災倉庫の中に入っているパーテーション（防災用テント）やAEDの使い方、アルファ米の炊き方などを学ぶ予定である。



(5) 新型コロナウイルス対策

昨年度末より、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休校措置がとられ、PTA役員のもとにも今後の学校生活についての心配の声が多数寄せられた。そこで、新型コロナウイルスについて、各家庭で考えたり話し合ったりするきっかけになればと考え、ウェットティッシュとともに新型コロナウイルスとは何か、どのような症状があるのか、感染対策としてどんなことを行えばよいのかなどをまとめたパンフレットを配付した。子どもにも分かりやすくまとめたものであったため、親子で話し合うよい機会になった。

【防災訓練の様子】



【新型コロナウイルスについてのパンフレット（健康教室9月号より引用）】

4 おわりに

今年度は、今まで当たり前のように行っていたPTA活動のほとんどが実施できない、または方法を見直さなければならない状況にあった。そのおかげで、学校・家庭・地域との連携を深め、家庭教育の充実を図るためには、どの活動も重要な役割を果たしていることに気付くことができた。そして、さまざまな制約がある中で、家庭の教育力強化を図るために、PTAに何ができるかを試行錯誤しながら取り組んでいる。今後は、新しい生活様式に合わせた方法、内容を考え、PTA会員が互いに協力し合いながら、子どもたちの瞳がきらきら輝く取組を実践していきたい。